

# 本格駆除作業終了直後の状況調査報告

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

日時：2021年2月20日（土）10:00～11:30

集合：9:45 親水広場 第2駐車場

場所：手賀沼大堀川河口部

船の運航：みずすまし号 古川、綾野、杉山（アルバトロスヨットクラブ）

参加：千葉県立中央博物館 林紀男さん、 美手連 7名

## （1）継続観察地点決定（3箇所）

本格駆除作業は、1月19日に開始し2月12日に完了している。美手連では、2020年度本格駆除完了エリアで3箇所を経過観察地点に定め継続調査をし、定期的に写真撮影し記録に残すこととした。

A ⇄ A' （竹杭2か所）大堀川河口部駆除エリア最南端

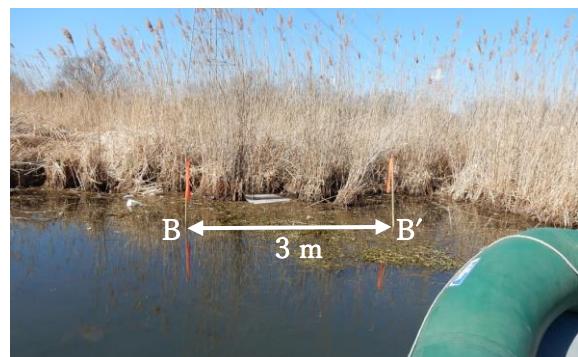
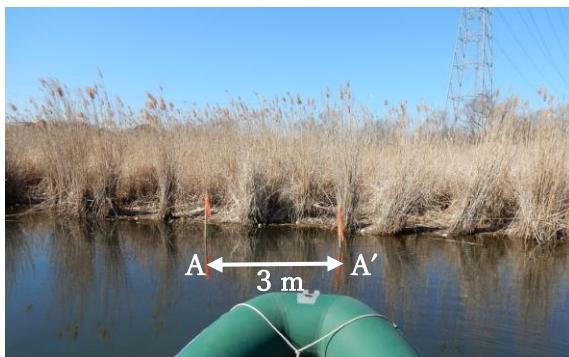
※取り残しあり、侵略的外来水生植物体の断片（以下、植物体断片）漂着

B ⇄ B' （竹杭2か所）大堀川河口部入口付近南側

※植物体断片漂着（この位置からは取り残しは確認できなかった）

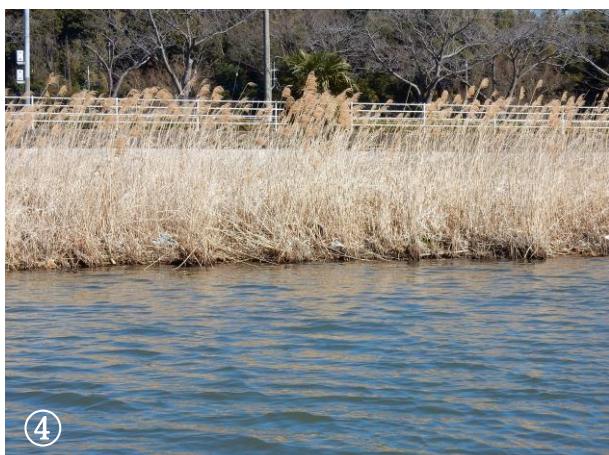
C （竹杭1か所）根戸新田地先 コンバー試験駆除エリア中央

※取り残しあり、植物体断片漂着



## （2）調査結果

- ・ 取り残しは予想外に少なかった。
- ・ 機械駆除でやるべきことは達成できていた。
- ・ ナガエ、オオバナがヨシの中にがっちり絡みつき根付いているものがあり、ヨシごと除去しない限り、必ず残る。継続駆除が必要。（図②⑤⑥）
- ・ 琵琶湖ではチクゴスズメノヒエと混生していたオオバナを残したばかりに翌年リバウンドし、結局チクゴスズメノヒエごとすべて除去していたが、ヨシは根深いため簡単にはいかない。
- ・ 大堀川河口部入口付近から根戸新田地先にかけて岸際一帯にすでに植物体断片が漂着している。島状に分布（⇒漂流？）している箇所が多数見られた。（図①②③⑤⑥）



### (3) 考察

- ・ 今回の駆除エリアを植物体断片流入侵入防止ネットで取り囲み、囲んだ内側でヨシの中から再生したものを丁寧に駆除し根治するようになるとよい。岸の部分の再繁茂ができるだけ早い段階で「芽を摘んで」おく。
- ・ ネットの外側に引っかかっている植物体断片を丁寧に回収した方がよい。
- ・ ネット設置期間は、植物体断片流入の供給源となる第二機場前、大津川河口部、大津川、大堀川の駆除が終了するまでの暫定策とする。
- ・ 新たにネット設置費用がかかるが、そのまま放置することで再繁茂し再度機械駆除を繰り返すことを考えると、費用対効果が高い。
- ・ ネットは、河川管理者である柏土木事務所に、河川管理の一環として設置してもらう。
- ・ ネット設置の目的を看板に掲げ、市民へPRしたらどうか。

以上